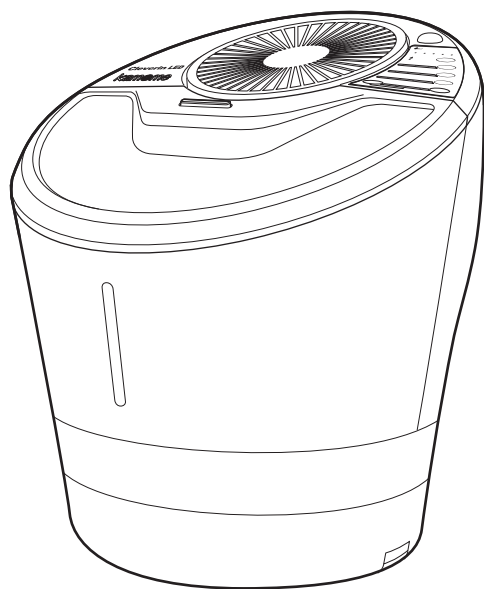


ハイブリッド式加湿器 KKHQ-651C

取扱説明書・保証書



このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあともいつでも見られるように大切に保存してください。

も く じ

安全上のご注意	P. 2~3
各部の名称とはたらき	P. 4~5
正しい使いかた	P. 6~15
お手入れと保存	P. 16~19
修理・サービスを依頼する前に	P. 20~21
アフターサービスについて	裏表紙
保証書	裏表紙

* 「フレベリン」は大幸薬品株式会社の登録商標です。

仕 様

型 名	KKHQ-651C
電 源	AC100V 50/60Hz
定格消費電力	135W (加湿運転時) / 8W (サーキュレーター運転時)
加湿装置	ハイブリッド式 (超音波+ヒーター)
加湿性能	1時間当り うるおい(強):約650ml / 快適(中):約500ml / おやすみ(弱):約250ml
連続加湿時間	約4時間 (「うるおい(強)」連続運転時)
水タンク容量	約3.0L
電源コード長さ	約1.8m
外形寸法	約 幅33.5×奥行34.5×高さ39cm
質 量	約3.5kg
付属品	抗菌カートリッジ×1 (本体に取付済)、フレベリンLEDカートリッジ×1、専用リモコン×1 (本体に取付済)、リモコン用コイン形リチウム電池 (CR2025)×1、取扱説明書・保証書 ×1

- 仕様等は改善・改良のため、予告なく変更することがあります。
- この製品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。
(This unit can not be used in foreign countries as designed for Japan only.)

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保存してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペット等にかかわる拡大損害を示します。)

図記号の意味と例

	⓪は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⓪の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。)

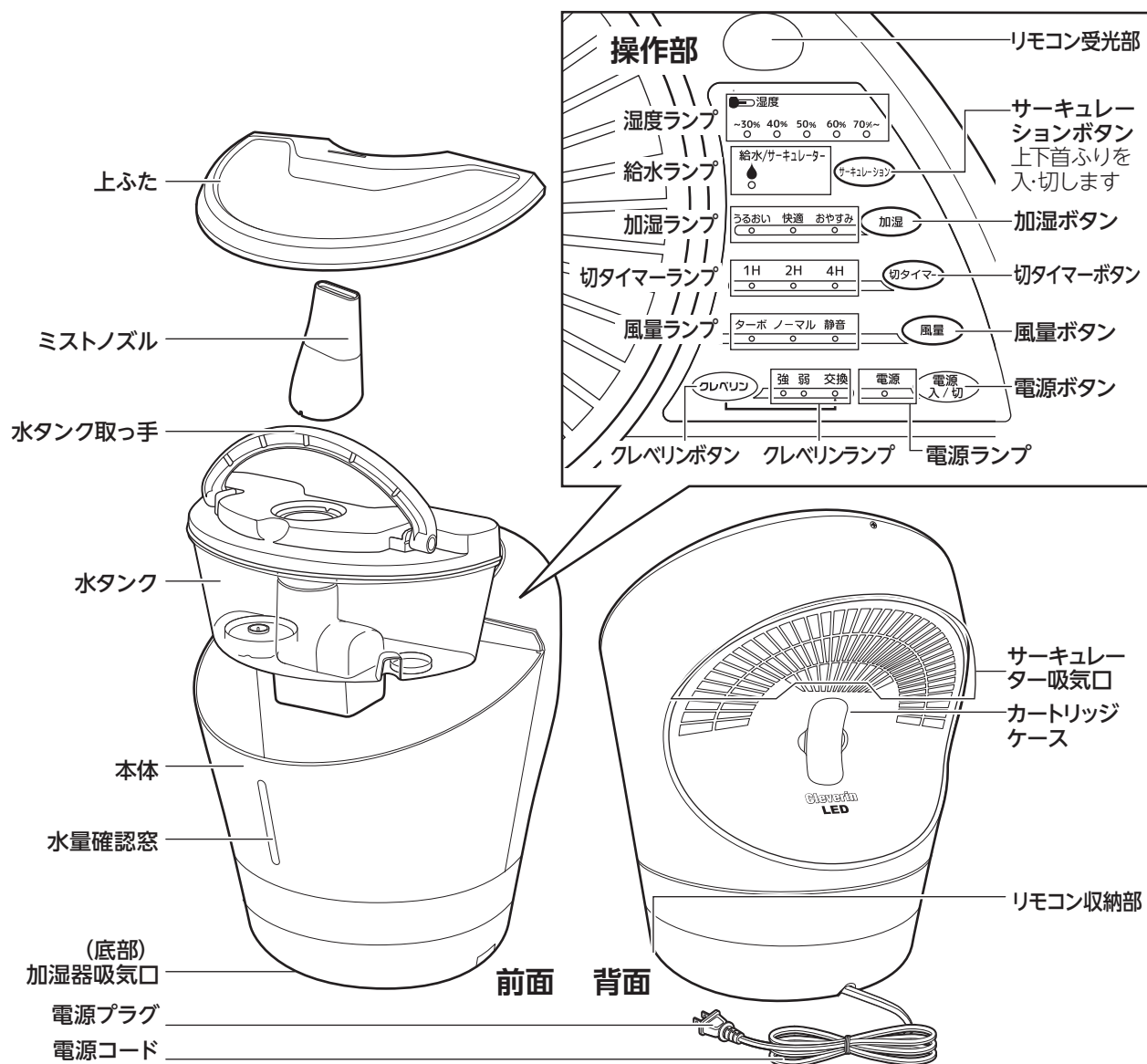
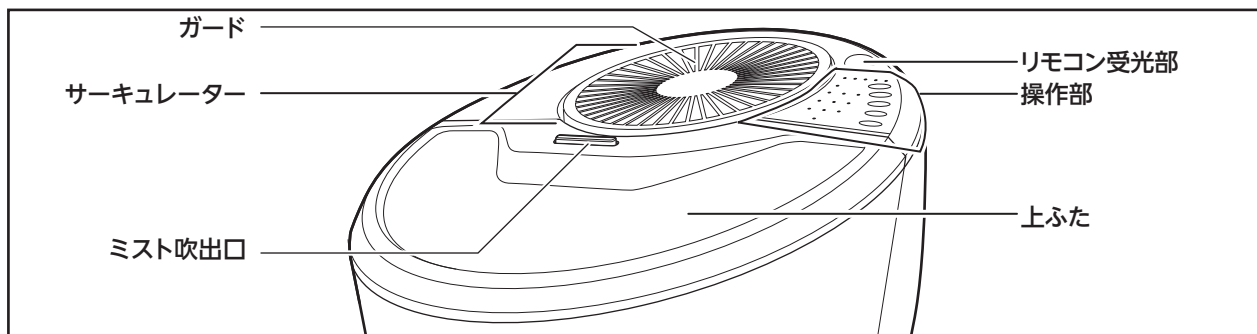
警告

 禁止	交流100V以外では使用しない。 火災・感電の原因になります。	 指示	電源プラグの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合はふきとる。 ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因になります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、重いものを乗せたり、挟み込んだりしない。 火災・感電の原因になります。		定期的な点検をおこなう。 点検を行なうことで、異常を早く見つけることができます。何もしないで使用を続けると、経年劣化による発火、けがをするおそれがあります。
	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。		リモコン用の電池からもれた液が目に入ったときは、こすらずに水で洗い流し、医師の診察を受ける。 失明や目に障害を負う恐れがあります。
	子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使用しない。 けが・やけど・感電の原因になります。	 プラグを抜く	使用後は電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。 火災や故障の原因になります。
	本体のすき間にピンや針金などの金属物等、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。		お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電・火災・けがの原因になることがあります。
	サーキュレーターのガードを取り付けずに運転をしない。 けが・故障の原因になります。	 分解禁止	分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 火災・感電・けがの原因になります。修理は販売店またはドゥシヤお客様相談室(▶裏表紙)にご相談ください。
	電池の充電・ショート・分解・火への投入・加熱などは絶対にしない。 液もれや破裂・火災などの原因となります。	 ぬれ手禁止	ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因になります。
 指示	異常時(こげ臭い、発煙など)は電源プラグを抜き、使用を停止する。 火災・感電の原因になります。	 水ぬれ禁止	水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。 ショート・感電の原因になります。
	電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。 感電・ショート・発火の原因になります。		

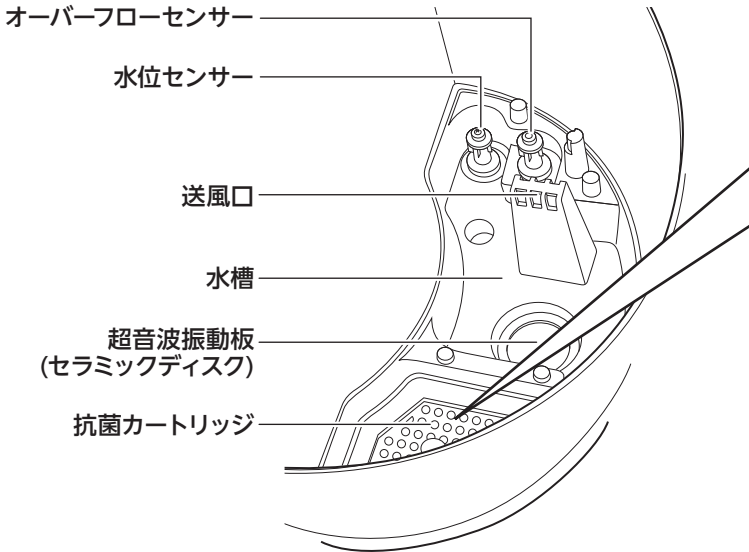
注意

湿度の高いところ(60%以上)では使用しない。 室内を濡らしたり、故障の原因となります。 加湿した風が直接、家具・壁・カーテン・天井などにあたるところで使用しない。 家具・壁に染みがついたり、変形の原因になります。本体を壁、家具、カーテン、寝具などから離してご使用ください。 犬やネコなどのペットのために使用しない。 ペットが本体や電源コードなどを傷め、火災の原因になることがあります。	髪をサーキュレーター(ガード)に近づけすぎない。 髪がまきこまれ、けがをすることがあります。 リモコンの電池は指定以外の電池を使用しない。 液もれなどの原因になります。 リモコンの電池は直射日光があたる場所など高温になる場所に置かない。 液もれや破裂・火災などの原因となります。 クレベリンLED収納部の、点灯したLEDを見つめない。 視力に影響の恐れがあります。
傾いた場所や棚などの高い場所・不安定な場所には置かない。 転倒すると本体の破損、けがの恐れがあります。 じゅうたんなど毛足の長い布の上には置かない。 底部の加湿器吸気口がふさがり、本体の故障、周囲への水漏れの原因になります。 ミスト吹出口、サーキュレーターのガードに指を入れない。 けがの恐れがあります。特に子供や幼児には注意をうながしてください。 ミスト吹出口、加湿器吸気口、サーキュレーターのガード・サーキュレーター吸気口をふさがない。 各種吹出口・吸気口をふさぐと、変形や故障の原因となります。 水タンクにお湯は使用しない。 40℃以上のお湯を使用すると、変形・誤動作の原因になります。 アロマオイルなど芳香剤を水タンクへ絶対入れない。 本体の破損、故障の原因になります。 水道水以外は使用しない。 一般的に水道水は塩素殺菌処理されており、雑菌が繁殖しにくいからです。ミネラルウォーター、アルカリイオン水、井戸水、浄水器の水を使用すると、カビや雑菌が繁殖しやすくなり、水アカが多くなったりして、異臭やミスト吹出量の減少、故障などの原因になります。 お手入れの際は住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉などを使わない。 変色・変形・感電・故障の原因になります。 風を長時間体に当てない。 健康を害することがあります。 本体を引きずらない。 床が傷つく原因になります。 本体を傾けない。 水タンクに、水を入れたまま本体を傾けると、水がこぼれる原因になります。	電源プラグを抜くときは電源コードを持たずに必ず電源プラグをもって引き抜く。 感電やショートの原因になることがあります。 加湿機能を使用しないときは、水を捨てる。 使用しない水をそのままにしておくと、カビや雑菌が繁殖し異臭の原因になります。使用しないときは、水タンクと本体内の水を捨ててください。 ミストノズルや上ふたなどきちんと取り付けて使用する。 きちんと取り付けずにミストが意外なところから放出したりして、ものをぬらしたり、故障の原因になります。 水タンクの水は毎日新しい水道水と入れ替える。本体内部は常に清潔を保つよう定期的にお手入れする。 お手入れせずにお使いになると、汚れや水アカにより、カビや雑菌が繁殖し、異臭の原因になります。まれに体質によっては、過敏に反応し健康を害することがあります。この場合は、医師に相談してください。 汚れや水アカが多くなると、異臭やミスト吹出量の減少、故障などの原因になります。 凍結のおそれがあるときは、本体の水を捨てる。 水が凍結すると、膨張することにより故障・破損の原因になります。超音波振動板を傷つけます 本製品の近くに携帯電話やパソコンなどを置かない。 加湿運転中は製品周囲の湿度が高くなりますので、製品の近くに置かないでください。 リモコンの電池は⊕⊖を正しく入れる。 間違えて入れると、故障するだけでなく、液もれや爆発の原因になります。 長時間使用しないときはリモコンの電池を抜く。 長時間入れたままにしておくと、液漏れによって内部を汚したり、破裂による火災やけがの原因になります。 リモコンを廃棄するときは、電池を抜く。 そのまま廃棄すると、思わぬ事故の原因となります。電池は各地方自治体の指示に従って処分してください。 クレベリンLEDカートリッジの取り扱いは「クレベリンLEDカートリッジご使用上の注意」にしたがって使用する。 本製品はテレビ、ラジオなどから2m以上はなして設置する。 雑音の原因になります。
次のようなところで使用しない。・レンジなど炎の近く・引火性のガスのあるところ・雨や水しぶきのかかる場所 変色・変形・炎の立ち消え、火災、感電の原因になることがあります。	

各部の名称とはたらき

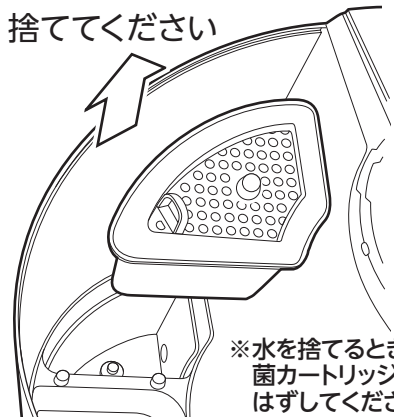


本体内部



排水方向

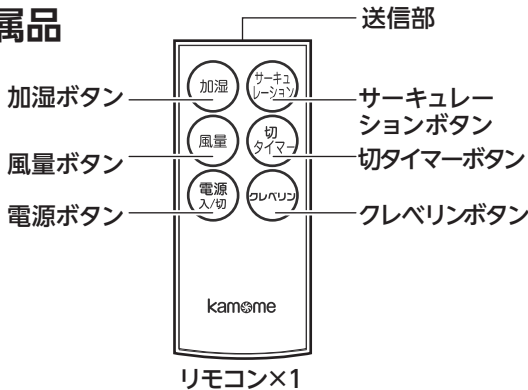
水はこの方向から捨ててください



※水を捨てるときは抗菌カートリッジを取りはずしてください。

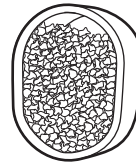
抗菌カートリッジは交換することができます

付属品



リモコン×1

リモコン用 コイン形リチウム電池 (CR2025) ×1



クレベリンLEDカートリッジ×1

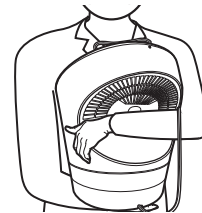
⚠注意

- ・アロマオイル・エッセンシャル (天然) オイルなど芳香剤を水タンクへ絶対入れない。本体の破損、故障の原因になります。
- ・本体を移動させるときは、先に水タンクをはずし、本体内の水を捨てる。水タンクおよび本体内の水がこぼれるおそれがあります。
- ・ミストノズル・上ふたを必ず取り付けて使用する。取り付けないで使用すると本体周辺を濡らしたり、故障の原因になります。
- ・本体の水を捨てるときは、必ず指定する方向から捨てる。他の方向から水を捨てると、送風口に水が入るなど、故障の原因になります。

本体の移動 (持ち運び) について

室内の移動

- ・電源プラグをコンセントからはずします。
- ・水タンク・抗菌カートリッジ・ミストノズル・上ふたをきちんと取り付け、電源コードを束ねてください。
- ・本体を両手で水平に持ち上げ、底面や側面を持って傾けないように静かに運んでください。
- ・少し長い距離を移動させるには、水タンク・本体内の水を捨ててから移動させてください。



持ち運びの例

*オーバーフローセンサーについて

オーバーフローとは水位が異常に上昇した状態をいいます。オーバーフローセンサーは通常では動作しませんが、オーバーフローしたときには、加湿運転を停止し、水があふれるのを防止します。水槽に水がたくさんたまっているときには、水を排水方向から捨ててください。水槽の水位が正常に戻ると加湿運転を再開します。

⚠注意

サーキュレーターのすき間に指を入れて持ったり、片手で持ったり絶対しない。故障・けがの原因になります。

正しい使いかた

使用前の準備

1. 本体を水平な場所に設置する

安定した水平な場所に設置してください。周囲に影響を与えることがあるため、十分な距離を保って設置するようにします(右図)。



注意
テレビ、ラジオなどから2m以上はなして設置する。
雑音の原因になることがあります。

- ※ 近くに可燃物がないことを確認し、可燃物があるときは、移動させてから使用してください。
- ※ 近くに携帯電話、パソコンなど湿気に弱い電子機器、精密機器などがないことを確認してください。

2. リモコンに電池を入れる

リモコンのとりはずし

本体右下のリモコン収納部に収納されているリモコンを一度押し込んで取り出します。

リモコンを収納するときは

本体右下のリモコン収納部に、操作面を上にして送信部から差し込みます。カチッと音がするまで押し込んで、収納されたことを確認してください。

付属の電池(コイン形リチウム電池CR2025)を下記の手順で入れてください。

①電池ボックスを引き出します。

※ 操作表示面を下にして、➡矢印部に指を引っ掛けて引き出します。

②+と-の向きを注意して、電池を入れます。

※ +プラス側を上にして入れてください。

③電池ボックスを差しこみます。

※ カチッと音がするまで押し込んでください。



- 警告**
- 電池の充電・ショート・分解・火への投入・加熱などは絶対にしない。
 - 万一、液もれが起こったときは、電池収納部周辺にもれた液をよくふき取ってから新しい電池を入れる。



- 注意**
- 電池の寿命を長くするため、長時間使わないときは電池を取りはずす。
 - 電池の破裂や液もれを防ぐため、⊕⊖を正しく入れる。

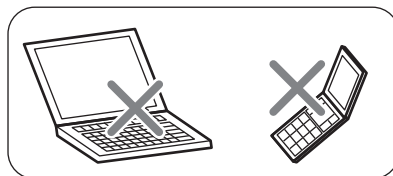
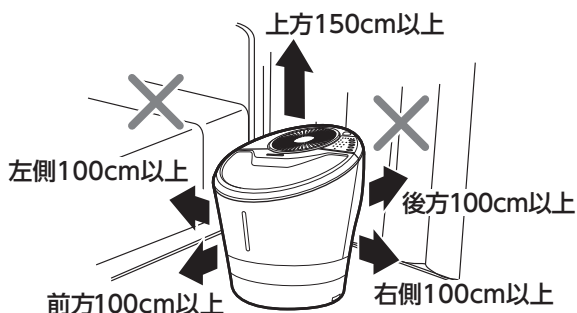
リモコンの使用可能範囲

- 本体正面から直線で約5m
- 本体正面から左右に約30度
- リモコンと本体の間に障害物があるときは、リモコンが正常に動作しないことがあります。

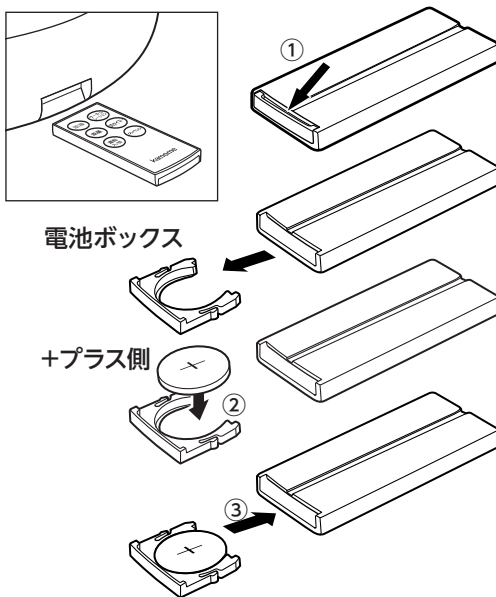
本製品の設置は壁や周囲から適当な距離を保ってください

本製品の設置は以下の点に注意してください。

- 本製品は壁、寝具、カーテン、家具などから100cm以上離して設置してください。
- ミスト吹出口、サーキュレーターを壁、寝具、カーテン、家具に向けないでください。二酸化塩素の作用により脱色や変色の恐れがあります。



- じゅうたんなど毛足の長い布の上には置かないでください。加湿器吸気口がふさがり、本体の故障、周囲への水漏れの原因になります。
- 本製品を使用すると、水道水に含まれるミネラル分などが、白い粉状になって室内に拡散されます。近くに置いた家具や電子機器などに付着し、白い汚れになったり、機器の機能に悪影響を与えてしまいますので、設置場所には十分注意してください。
- 本製品の近くには携帯電話、パソコンなど湿気に弱い電子機器、精密機器は絶対に置かないでください。



【加湿運転の準備】

(加湿機能を使用しないときは給水しないでください。)



警告 給水するときは安全のため、電源を切り、電源コードをコンセントから抜く。感電・火災・けがの原因になります。

3. 水タンクを取り出して給水する

- ① 上ふたをはずし、ミストノズルをとりはずし、本体から水タンクを取り出します。
- ② 水タンクキャップをはずして、水タンクにきれいな常温の水道水を入れてください。
- ③ 水タンクキャップを確実にしめて、こぼれた水をふきとり、水もれがないことを確認してください。



注意

- 水道水以外の水は使用しない。
- アロマオイル・エッセンシャル（天然）オイルなど芳香剤を水タンクへ絶対入れない。本体の破損、故障の原因になります。
- 運転終了後、再度給水するとき、上ふたを取りはずすときに上ふたの裏側についた水滴がこぼれますので、タオルなどを準備して本体や床が濡れないようにしてください。

4. 抗菌カートリッジを取り出して、水洗いし、同じ場所に取り付ける

本体の水タンクの下にある、抗菌カートリッジを取り出してください。抗菌カートリッジをポリ袋から取り出して、水洗いして、再度取り付けられていたところに取り付けてください。



注意 抗菌カートリッジは必ずポリ袋から取り出し、水洗いしてから、取り付ける。

5. 水タンク・ミストノズル・上ふたを確実に取り付ける

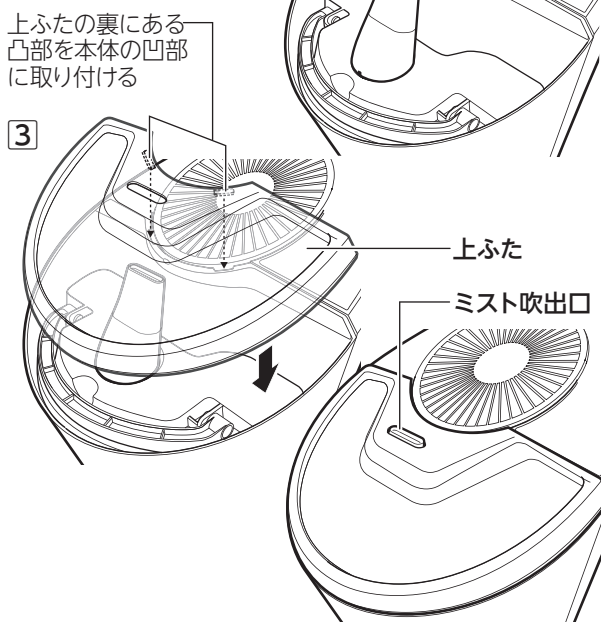
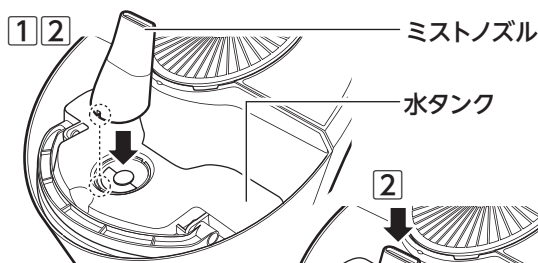
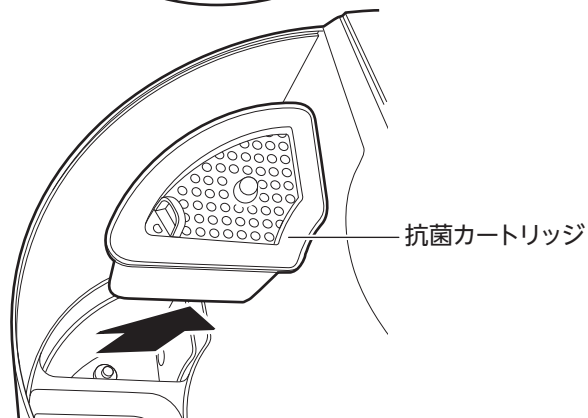
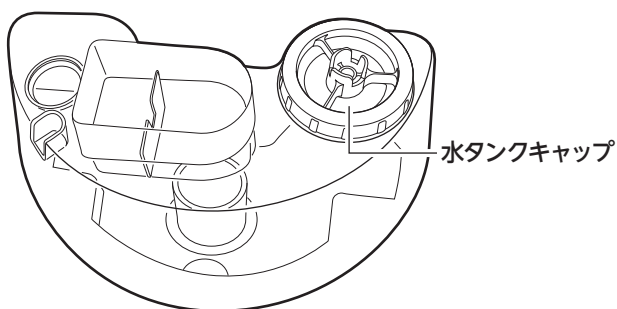
- ① 水タンクを本体に確実に取り付けます。
※ 水タンクを取り付ける前に、抗菌カートリッジが取り付けられているか確認します。抗菌カートリッジを取り出したとき、元通りに取り付けないと水タンクから水が供給されないため、加湿機能は運転しません。
- ② ミストノズルを水タンクの上に取り付けます。
※ ミストノズルの正しい方向には、ぴったり取り付けることができます。
- ③ 上ふたを取り付けます。
※ 上ふたの裏にある凸部を本体の凹部にとりつけるようにすると、キチンと取り付けることができます。

6. 電源プラグをコンセントに差し込む

ピッと音がします。



警告 電源コードを束ねたまま使用しない。電源コードの発熱、発火のおそれがあります。



正しい使いかた (つづき)

加湿機能を使う

加湿運転するためには水を水タンクにいれる準備が必要です (➡7ページ)

1. 電源ボタン (電源入/切) (電源入可) を押す

電源ランプが点灯します。

(給水していないときは、給水ランプが同時に点灯し、給水を促すピツという音が5回します。)

水道水を水タンクに入れて、給水ランプを消灯させてください。(➡7ページ)

2. 加湿ボタン (加湿) (加湿) を押す

- ・「ピツ」と音がして、加湿ランプの「うるおい」が点灯します。
- ・本製品まわりの湿度を測定し、最上部の湿度ランプを表示します

約2分後に、加湿「うるおい(強)」で運転開始します※

- ・サーキュレーターは加湿とほぼ同時に回り始めます。
※湿度70%以上(快適・おやすみに設定したときは60%以上)のときは、自動運転により加湿を開始せず、加湿ランプは点滅します。[自動運転について (➡9ページ)]



給水表示ランプが消えてからすぐ電源ボタン (電源入/切) (電源入可) ボタンを押しても、約2分間は加湿しません。

水温を60℃以上に加熱し、殺菌を行ってから加湿運転を行なうためです。

- ・加湿時にはサーキュレーターは常に運転していますので、停止させることはできません。

3. 加湿ボタン (加湿) (加湿) を押して加湿量を調節する

加湿ボタン (加湿) (加湿) を押すと、加湿量を「うるおい(強・650ml/h)」・「快適(中・500ml/h)」・「おやすみ(弱・250ml/h)」・「停止」と変化させることができます。加湿運転「停止」時は加湿を停止し、サーキュレーターは1分後に停止します。

- ・湿度ランプを参考に加湿量を調整してください。
- ・「うるおい(強)」モードでは湿度70%以上、「快適(中)」・「おやすみ(弱)」モードでは湿度60%以上になると、運転を停止します。(➡9ページ)

水タンクに水がなくなると

- ・ブザーが5回鳴り※、給水ランプが点灯します。運転を停止し、電源ランプが点灯します。給水してください[加湿運転の準備(➡7ページ)]。(サーキュレーターは約1分後に停止します)

給水/サーキュレーター



○ (消灯)

サーキュレーション

強 弱 交換



電源



○ (点灯)

電源入/切

うるおい 快適 おやすみ



加湿



湿度

~30% 40% 50% 60% 70%~



湿度ランプ (現在の湿度の表示)



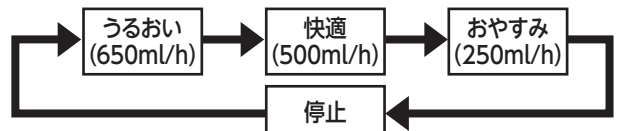
湿度

(湿度40パーセント台の例)

~30% 40% 50% 60% 70%~



加湿 (加湿) を押すごとに



うるおい 快適 おやすみ



加湿



冬場に就寝する際、暖房機を止めて室内の温度が15℃以下になり、加湿運転を継続すると結露が発生することがあります。

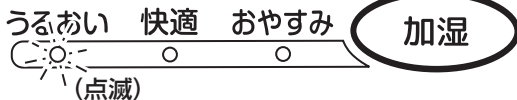
本体や床が濡れることがありますので、就寝時や室温が15℃以下、湿度が60%以上になる状況が予測される環境で使用されるときは、加湿運転を「おやすみ」モードにするか、使用を停止してください。

自動運転について

本製品内で計測した実際の湿度から、モードに設定してある湿度 (70%・60%) ~40%の湿度を保つように自動運転を行ないます。

そのため、必ずしも運転状態ではなく、湿度によっては運転停止状態であることもあります。そのときは、加湿ランプが点滅状態になり、運転停止状態をあらわします。

例: 「うるおい」モード中の運転停止状態



モードによって加湿量や維持される湿度が違います (右表)。「うるおい」モードで湿度を一気にあげ、その後、他のモードに切り替えるなどといった使いかたができます。

自動運転停止時、サーキュレーターは加湿運転を停止してから約1分後に運転を停止します。

モード設定 (維持湿度)	運転停止	運転再開	加湿量	
①うるおい	40～70%	70%超	40%	650ml/h
②快適	40～60%	60%超	40%	500ml/h
③おやすみ	40～60%	60%超	40%	250ml/h

(自動運転例)

運転開始から一気に維持湿度まで加湿し、決められた湿度に到達すると運転を停止。そのまま湿度は低下し、湿度40%になったところで再び運転を開始します。湿度の変化は環境によって変化し、一般的に・密閉性が高い家屋は湿度が下がるのは遅く、加湿は早い・木造の家屋は湿度が下がるのは早く、加湿は遅いとなります。

①うるおい

加湿量・維持する湿度が高い分、動作音も大きくなります。

②快適

①と③の間で、通常の運転に適しています。

③おやすみ

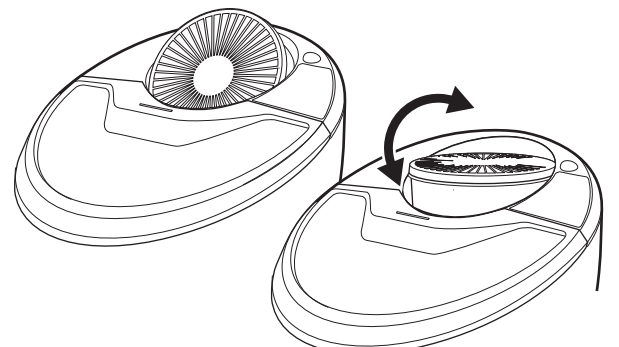
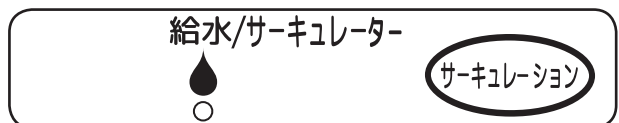
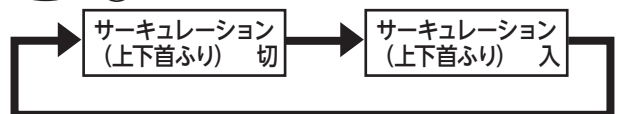
動作音は小さいですが、加湿量が少ないため、1度の動作間隔は長くなります。

4. サーキュレーションボタン (サーキュレーション) (サーキュレーション) でサーキュレーターの上下の首ふりを選択する

サーキュレーションボタン (サーキュレーション) (サーキュレーション) を押すと上下の首ふりを入・切できます。

- ・サーキュレーションボタン (サーキュレーション) (サーキュレーション) を押すと、押した角度で止めることができます。
- ・サーキュレーターは手動で角度を変えることができないため、必ずこの機能を使って角度を変えるようにしてください。

サーキュレーション (サーキュレーション) を押すごとに



サーキュレーション角度



前傾 約-25°

正位置 0°

後傾 約25°

⚠注意

- ・サーキュレーターの角度を変えるときには必ずサーキュレーションボタン (サーキュレーション) (サーキュレーション) を使う。
手動で角度調節すると、故障の原因になります。
- ・サーキュレーターに指や物などをはさまないように十分注意する。
首ふり角度 (前斜や後斜) がついているときに、サーキュレーションボタン (サーキュレーション) (サーキュレーション) を押すと、指や物などをはさんでしまうことがあります。けがや故障の原因となります。

※ サーキュレーター部を押し込む・角度を変えようすると、ガチガチ音がします。故障の原因になりますのでそれ以上のことはしないでください。

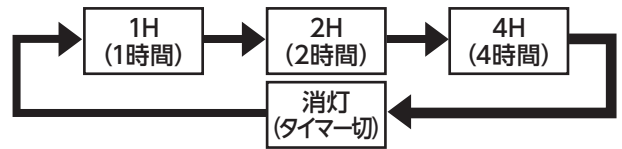
正しい使いかた (つづき)

5. 切タイマーを設定するときは、運転中に切タイマーボタン(切タイマー)を押す

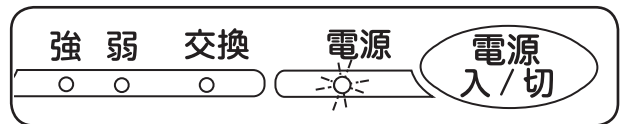
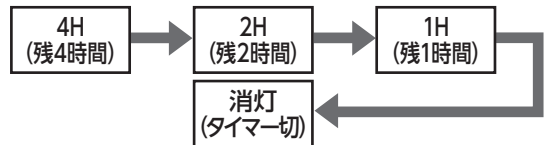
切タイマーボタン(切タイマー)を押すごとに右のように設定時間が切り替わります。

- ・切タイマーを設定したのち、時間の経過とともに切タイマーランプが移り変わり、切タイマーが働くまでの時間を表示します。
- ・切タイマーを解除するには切タイマーボタン(切タイマー)を何度か押して、切タイマーランプを消灯させてください。
- ・切タイマーを設定したあとでも、加湿・サーキュレーター機能の変更をすることができます。
- ・切タイマー設定時間まで加湿がつづくように、水タンクは満水にして運転を開始してください。
- ・自動運転停止時にも切タイマーの計時はつづきます。
- ・自動運転停止時に切タイマーの設定時間になると、運転再開しません。
- ・切タイマーが作動すると、電源ランプが点灯します(自動運転停止状態では加湿ランプ点滅、電源ランプ消灯)。

切タイマー(切タイマー)を押すごとに



時間が経過すると(切タイマーが働くまでの時間表示)



6. 運転を終了するには、電源ボタン(電源入/切)を押す

電源ボタン(電源入/切)を押すと加湿が止まり、電源ランプが消灯します。

- ・加湿が止まったあと、サーキュレーターは約1分間回り続け、そのあととまります。

7. 電源プラグをコンセントから抜く

サーキュレーターが止まったことを確認してから電源プラグをコンセントから抜いてください。

- ・加湿ランプが点滅しているときは、自動運転による停止状態です。
- ・電源ボタン(電源入/切)を押して電源ランプを消灯させてから電源プラグを抜いてください。



注意 運転中は本体を動かさない。
水がこぼれ、感電、火災の原因になります。



- ・使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
絶縁劣化による感電、漏電、火災の原因になります。
- ・お手入れするときは安全のため電源プラグをコンセントから抜く。
感電、火災の原因になります。

サーキュレーターを使う

サーキュレーター機能のみを使用するには、本体・水タンクから水を捨てます（給水ランプ点灯のまま使用します）。

1. 水タンク・本体内に水があれば捨てる



警告 水を捨てるときは安全のため、電源を切り、電源コードをコンセントから抜く。感電・火災・けがの原因になります。

《水を捨てる前に》電源プラグをコンセントから抜いてください

加湿機能から移行するときは、サーキュレーターが止まったことを確認してから電源プラグをコンセントから抜いてください。

本体内の水は、水タンクを取りはずし、本体を傾けて捨てます。必ず指定する方向（右図）から捨ててください。



注意 本体内の水を捨てるときは、必ず指定する方向から捨てる。

他の方向から捨てると、送風口や電気系統などに水が入って故障する可能性があるため、必ず指定方向から捨てるようにしてください。

2. 水タンクやミストノズル、上ふたなどを元に戻す

加湿機能を使用していたときと同じように、抗菌カートリッジ・水タンク・ミストノズル・上ふたをきちんと取り付けてください。

3. 電源プラグをコンセントに差し込む

ピッと音がします。



警告 電源コードを束ねたまま使用しない。電源コードの発熱、発火のおそれがあります。

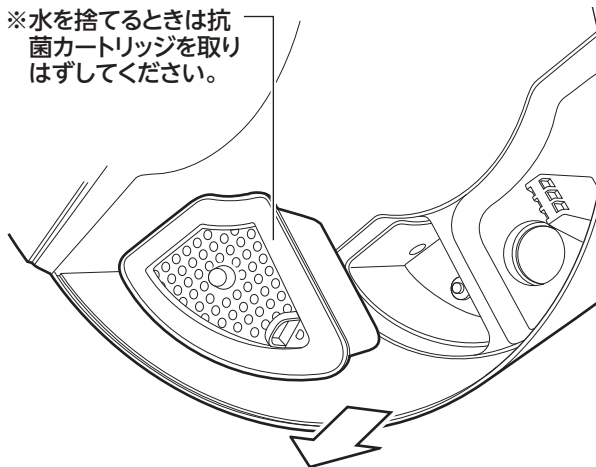
4. 電源ボタン（電源入/切）（電源入/切）を押す



警告 ガードを取り付けずに運転をしない。

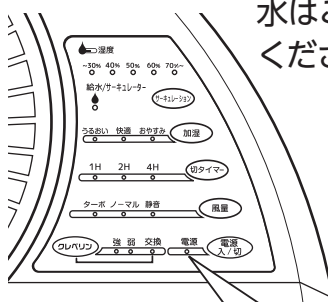
電源ボタンを押すと、電源ランプが点灯します。給水ランプが同時に点灯し、給水を促すピッと音が5回します。

※水を捨てるときは抗菌カートリッジを取りはずしてください。



排水方向

水はこの方向から捨ててください



強 弱 交換

電源

電源入/切

正しい使いかた (つづき)

5. 風量ボタン(風量)(風量)を押す

風量ボタン(風量)(風量)を押すと、

- ・「ピッ」と音がして、風量ランプの「静音」が点灯してサーキュレーターが回り始めます。

すぐにサーキュレーター「静音(弱)」で運転を開始します

- ・給水ランプは点灯していますが、問題ありません。
- ・湿度ランプは点灯しません。
- ・加湿ボタン(加湿)(加湿)を押しても反応しません。

6. 風量ボタン(風量)(風量)を押して、風量を設定する

風量ボタン(風量)(風量)を押すと、風量を「静音(弱)」・「ノーマル(中)」・「ターボ(強)」と変化させることができます。

7. サーキュレーションボタン(サーキュレーション)(サーキュレーション)でサーキュレーターの上下の首ふりを選択する

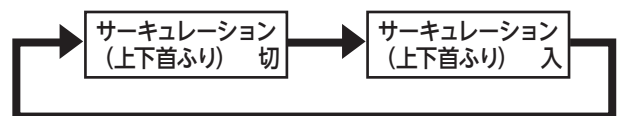
サーキュレーションボタン(サーキュレーション)(サーキュレーション)を押すと上下の首ふりを入・切できます。

- ・サーキュレーションボタン(サーキュレーション)(サーキュレーション)を押すと、押した角度で止めることができます。
- ・サーキュレーターは手動で角度を変えることができないため、必ずこの機能を使って角度を変えるようにしてください。

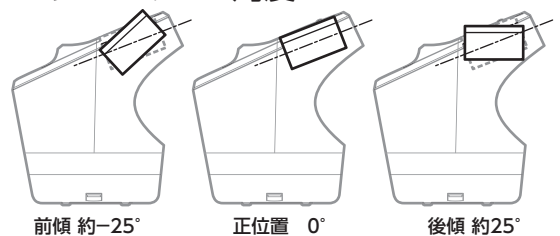
風量(風量)を押すごとに



サーキュレーション(サーキュレーション)を押すごとに



サーキュレーション角度



⚠ 注意

- ・サーキュレーターの角度を変えるときには必ずサーキュレーションボタン(サーキュレーション)(サーキュレーション)を使う。手動で角度調節すると、故障の原因になります。
- ・サーキュレーターに指や物などをはさまないように十分注意する。首ふり角度(前斜や後斜)がついているときに、サーキュレーションボタン(サーキュレーション)(サーキュレーション)を押すと、指や物などをはさんでしまうことがあります。けがや故障の原因となります。

※ サーキュレーター部を押し込む・角度を変えようとすると、ガチガチ音がします。故障の原因になりますのでそれ以上のことはしないでください。

8. 切タイマーを設定するときは、運転中に切タイマーボタン(切タイマー) (切タイマー) を押す

切タイマーボタン(切タイマー) (切タイマー) を押すごとに右のように設定時間が切り替わります。

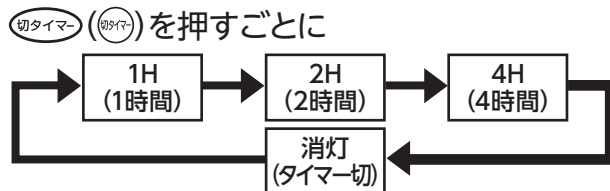
- 切タイマーを設定したのち、時間の経過とともに切タイマーランプが移り変わり、切タイマーが働くまでの時間を表示します。
- 切タイマーを解除するには切タイマーボタン(切タイマー) (切タイマー) を何度か押して、切タイマーランプを消灯させてください。
- 切タイマーを設定したあとでも、サーキュレーター機能の変更をすることができます。

9. 運転を終了するには、電源ボタン(電源入/切)を押す

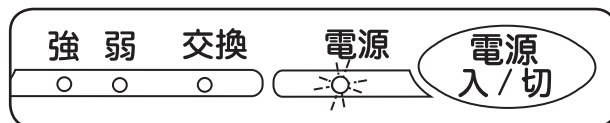
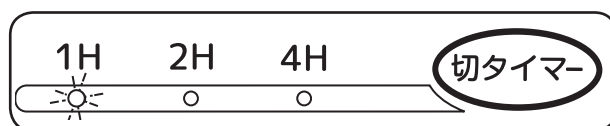
10. 電源プラグをコンセントから抜く

サーキュレーターが止まったことを確認してから電源プラグをコンセントから抜いてください。

 警告	• 使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。 絶縁劣化による感電、漏電、火災の原因になります。 • お手入れするときは安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電、火災の原因になります。
--	---



時間が経過すると(切タイマーが働くまでの時間表示)



正しい使いかた (つづき)

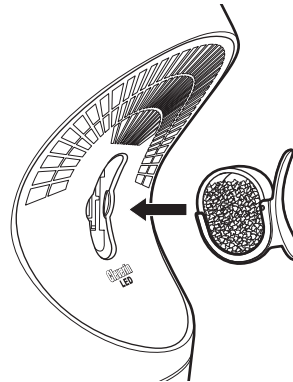
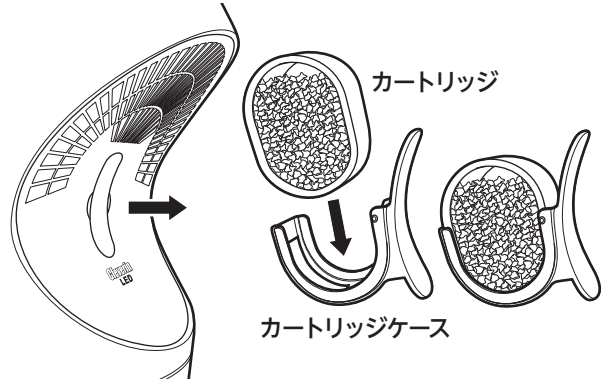
クレベリン運転の開始／停止

クレベリンLEDカートリッジを本体に装着して **クレベリン** ボタンを押すと二酸化塩素を発生するクレベリン運転が始まります。

本機の裏面にあるカートリッジケースにクレベリンLEDカートリッジを装着することができます。クレベリンLEDカートリッジは、本体内部でLEDの光が照射されることにより、二酸化塩素が発生します。

準備

1. 本体裏側のカートリッジケースを引き出す
2. カートリッジをアルミパックより取り出し、カートリッジケースに取り付ける



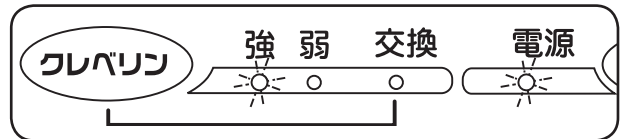
⚠ 注意

- ・カートリッジは使用開始直前までアルミパックから取り出さない。
- ・カートリッジのパッケージにある注意事項をよく読む。

3. カートリッジケースを本体に差し込む
カートリッジケースを本体の奥までしっかりと差し込みます。
4. 加湿運転・サーキュレーター運転中に**クレベリンボタン** **クレベリン** () を押して、**強・弱・切**を設定する

加湿機能、サーキュレーター機能、どちらでも運転中に、クレベリンボタン **クレベリン** () を押すことにより、クレベリンLEDの機能をご利用いただけます。

※ 加湿運転時のクレベリン運転は、電源ボタン **電源** ()、加湿ボタン **加湿** () を押し、次にクレベリンボタン **クレベリン** () を押すことにより、クレベリンLEDの機能をご利用いただけます。加湿運転時のクレベリン運転では、風量の切り替えはできません。静音運転のみとなります。クレベリン運転を停止するには電源ボタン **電源** () を押します(クレベリンボタン **クレベリン** () で機能を停止することはできませんが、電源ランプは点灯したままになります)。



- ・強では二酸化塩素の発生量は多くなり、特にお部屋の除菌を積極的にしたいときや広めのお部屋に使用します（弱よりもカートリッジの寿命が短くなります）。
- ・弱は、平常時や長時間利用の際に使用します。
※ただし、弱の場合でもクレベリンボタン(クレベリン) (強)を押した最初の10分間は強とほぼ同じ量の二酸化塩素が発生します。
- ・切にすると、クレベリン運転は停止し、加湿、サーキュレーター運転は続きます。
※加湿運転とクレベリン運転を使用中、設定した湿度になったときは、加湿運転は停止しますが、クレベリン運転は続きます。
※クレベリン運転時は二酸化塩素を発生させるため、後部の青いLEDランプが点滅します。おやすみのときや気になる場合はクレベリン運転を停止してください。

5. 加湿運転・サーキュレーター運転を停止すると、クレベリン運転も切になる

クレベリン運転をするときは、再度加湿機能、サーキュレーター機能を開始後にクレベリンボタン(クレベリン) (強)を押します。

クレベリンLEDカートリッジの交換

カートリッジは消耗品です。寿命がくると、交換ランプが点灯します。クレベリンLEDカートリッジを交換してください。

交換したあと、必ずクレベリンボタン(クレベリン) (強)を長押し(約5秒間)交換ランプをリセットしてください。交換ランプが消灯します。

カートリッジの交換目安:

強モード約1ヶ月、弱モード約3ヶ月（1日8時間利用の場合）

[交換用カートリッジ]

クレベリンLED 交換用カートリッジ LED-010

発売元：大幸薬品株式会社

本機をお求めの販売店でお買い求めください。



クレベリン運転中にカートリッジケースを抜かない。

安全のためクレベリン運転を停止します。運転を再開するときは必ずカートリッジケースを正しく装着してから運転してください。

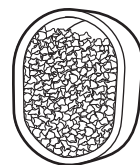
クレベリンとは

二酸化塩素の除菌・消臭力に着目した大幸薬品が開発した除菌消臭製品のブランドです。お部屋に置いて使う「クレベリンジェル」、ウイルスや菌、ニオイが気になる場所に吹き付けて使う「クレベリンスプレー」などがあります。

クレベリンLEDとは

クレベリンLEDは、大幸薬品がクレベリンシリーズで培った技術を基に開発した二酸化塩素を発生させる小型の装置です。LEDから発せられる光を「クレベリンLED カートリッジ」に照射することで、二酸化塩素が発生する仕組みです。スイッチをオン・オフすることで二酸化塩素の発生をコントロールします。

「クレベリンLED カートリッジ」は消耗品であり、交換式です。



クレベリンLEDカートリッジ

二酸化塩素による除菌消臭とは

二酸化塩素には他の物質を酸化させる力があり、ウイルス、菌などに含まれるタンパク質を構成するアミノ酸を酸化し機能を低下させ、また、においの原因物質を変化する作用があります。

お手入れと保存



警告 お手入れのときは、本体の動作が停止したことを確認し、必ず電源プラグをコンセントから抜く。感電やけが、やけどの原因になります。

お願い

- ・住宅用洗剤やシンナー、ベンジン、アルコール、磨き粉などは絶対に使わないでください。
- ・化学ぞうきんを使用するときは、その注意書きに従ってください。
- ・本体に直接、水をかけて洗わないでください。(感電・故障の原因になります。)

本体のお手入れ

本体の汚れは、ぬるま湯か食器用中性洗剤に浸してかたくしぼった柔らかい布でふきとり、さらに乾いた布でやさしくからぶきをしてください。(樹脂部分は強くこすらないでください。傷つきの原因となることがあります。)

吸気口のお手入れ

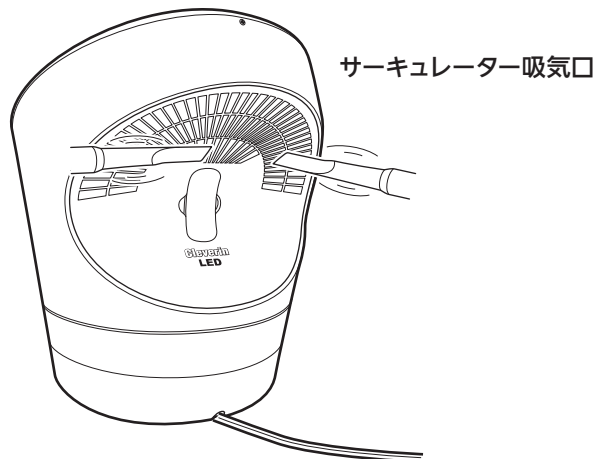
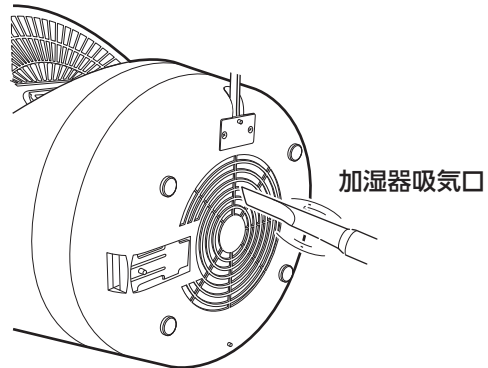
加湿器吸気口、サーキュレーター吸気口のコリは掃除機で吸い取ってください。

水タンクのお手入れ (週に2回以上)

水タンク内に水を入れ、水タンクキャップを締めて水タンクをよく振り、排水してください。(これを2～3回繰り返します。)

※ 水タンクは必ず水で洗う。

お湯で洗うと変形の原因となります。また洗剤などで洗うと故障の原因となりますので、洗剤などは使わないでください。



- ・ベンジン・シンナーではふかない。(変色や変形の原因)
- ・化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従って使用する。(変色・キズの原因)
- ・水タンクおよび本体内の水は毎日新しい水道水と入れ替える。本体内部は常に清潔を保つよう定期的にお手入れする。
お手入れせずにお使いになると、汚れや水アカにより、カビや雑菌が繁殖し、異臭の原因になります。まれに体質によっては、過敏に反応し健康を害することがあります。この場合は、医師に相談してください。
- ・水道水以外は使わない。
一般的に水道水は塩素殺菌処理されており、雑菌が繁殖しにくいからです。ミネラルウォーター、アルカリイオン水、井戸水、浄水器の水は水アカが多くなったり、カビや雑菌が繁殖しやすくなります。必ず、きれいな水道水をご使用ください。
- ・ジュースなどの飲料水、温水 (40℃以上)、化学薬品、芳香剤 (アロマオイルなど)、洗剤を入れた水などは絶対に使用しない。
水タンクや本体が故障する原因となります。

サーキュレーターのお手入れ

サーキュレーターの羽根、内部のお手入れは、ガードをはずして行ないます。

※ 本機では、羽根をはずすことはできません。

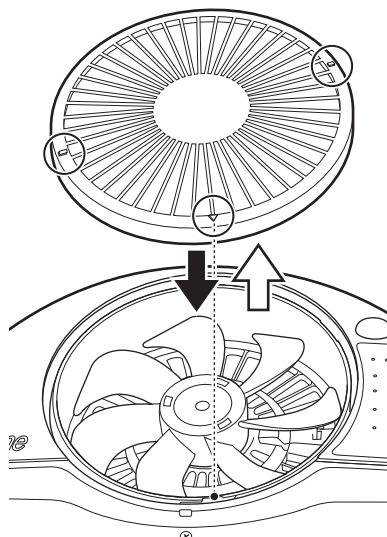
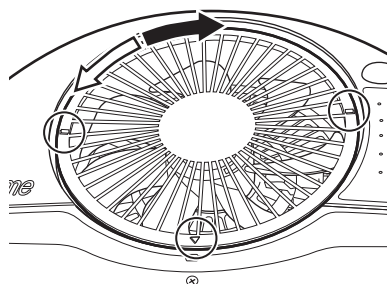
ガードの取りはずしかた (右図⇨)

ガードを反時計回し⇨にして、動かなくなったところで引き上げ⇧、取りはずします。

ガードの取り付けかた (右図⇨)

ガードの▽を下に、2箇所 の □ を左右に置きます。

(右図) ▽を本体の凹みに合わせて取り付け⇩、時計回し⇨にして、固定させます。



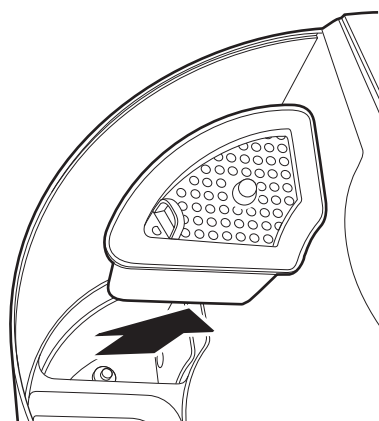
⚠ 注意

- サーキュレーターの角度を変えるときには必ずサーキュレーションボタンを使う
手動で角度調節することはできません。
故障の原因になります。
- サーキュレーターの羽根のお手入れには十分注意する。
壊れやすいので、十分注意してください。
万一、傷ついたり欠けたりすると、動作時の音が大きくなったりします。
- 羽根が回転しているときは、ガードをはずさない。

本体内部・抗菌カートリッジのお手入れ

本体に残っている水をきれいに捨ててください。

- 水を捨てるときは、必ず本体に表示されている矢印方向から捨ててください。矢印方向以外から水を捨てると、本体内に水が入り、故障の原因となります。
- 抗菌カートリッジを取りはずし、カートリッジまわりも下の部分もきれいにします。
- 本体内部・抗菌カートリッジは水で洗います。



取り出し

抗菌カートリッジは取り出すことができます

⚠ 注意

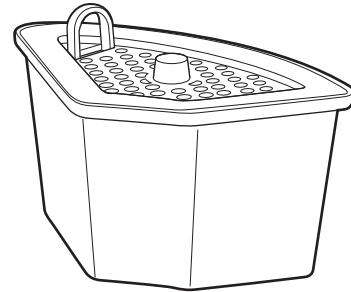
- 本体内部・抗菌カートリッジは洗剤をつけて洗わない。
故障の原因になり、抗菌カートリッジの抗菌効果に影響します。
- 抗菌カートリッジの内部の薬剤は交換することができません。
抗菌カートリッジは、カートリッジごと交換することになります。
- お手入れが終わったら抗菌カートリッジを元通りに取り付ける。
加湿運転のときは、必ず抗菌カートリッジを取り付けてください。抗菌カートリッジを元通りに取り付けないと(水タンクから水が供給されないため)加湿機能は運転しません。

お手入れと保存 (つづき)

抗菌カートリッジについて

- ・抗菌カートリッジの効果は使用頻度・水温そのほか条件によって異なりますが、約1年です。
- ・効果のなくなった抗菌カートリッジは、効果が弱くなり、白い粉が発生しやすくなります。新しい抗菌カートリッジに交換してください。

交換用の抗菌カートリッジABWSBX-KKHQ651Cは別売しております。1個1,500円(税抜)
お買い上げの販売店またはドウシシャお客様相談室
(☛裏表紙) へお問い合わせください。



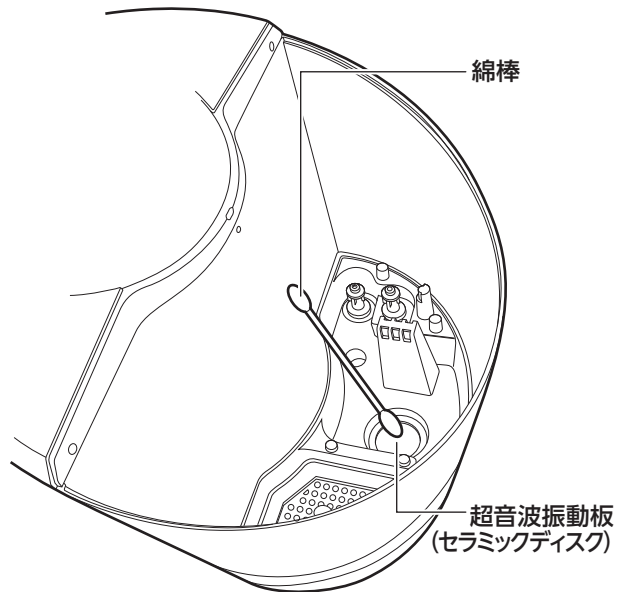
抗菌カートリッジ

超音波振動板 (セラミックディスク) のお手入れ

超音波振動板 (セラミックディスク) に油分が付着したり、汚れが着いたりすると、ミストが正常に発生しなくなります。また汚れでなくても、気泡などが付着してもミストの発生が悪くなります。

そうしたときは、超音波振動板 (セラミックディスク) のお手入れをしてください。

- ・綿棒を用意し、綿棒に水をつけて汚れ・気泡を取り除いてください。
- ・綿棒が乾いた状態でお手入れすると、超音波振動板 (セラミックディスク) を傷めます。



注意

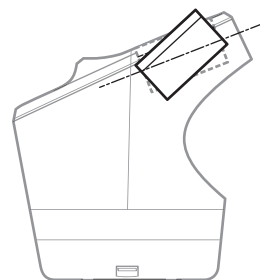
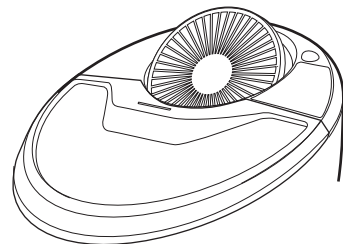
超音波振動板 (セラミックディスク) をお手入れするときは、力を入れすぎないように注意する。力を入れると、傷つけてしまい、かえって使用することができなくなってしまうことがあります。

サーキュレーターよりも下 (内部) に物を落としてしまったときは

サーキュレーターの下 (内部) に物を落とさないよう、十分気をつけてください。

万一、内部に物を落としてしまったときは、以下の手順で取り出します。

- ① サーキュレーションボタン (サーキュレーション) (🔄) を押してサーキュレーターが一番手前に向いた状態 (前傾約 25°) にします。
- ② 電源ボタン (電源入/切) (🔌) を押して電源を切り、サーキュレーターが停止するのを待って、電源プラグをコンセントから抜きます。
- ③ 落としてしまったものに注意して、本体に残っている水を捨ててください。
 - ・上ふた、ミストノズル、水タンク、抗菌カートリッジをはずします。



- ・本体に残っている水を捨てます。水を捨てるときは、必ず本体に表示されている矢印方向から捨ててください。

④ 本体を手前に倒して物を取り出してください。

上記の方法で取り出せないとき、サーキュレーターの下空間よりも下に落ちたときや、落下してこないようなもの(粘着性がある、軽い、など)、サーキュレーターの下すき間から取り出せないものときは、販売店またはドウシシャお客様相談室(➡裏表紙)にご相談ください。絶対に分解はしないでください。

 警告	・絶対に分解しない。 感電やけが、やけどの原因になります。 ・内部に金属や液体などが入ってしまったときは、すぐに運転を停止し、電源プラグをコンセントから抜く。
--	--

 注意	サーキュレーターに指や物などをはさまないように十分注意する。 首ふり角度(前斜や後斜)がついているときに、指や物などをはさんでしまうことがあります。けがや故障の原因となります。
--	---

保存のしかた

- ・お手入れのあと、よく乾燥させてください。
- ・フレベリンLEDカートリッジを取りはずしたあと、ポリ袋などをかぶせ、お買い上げの商品が入っていた箱に入れて、湿気の少ない場所に保存してください。
- ・保存する前に、前もってサーキュレーション機能でサーキュレーターが本体と同じ角度を向くように調節しておきます(本製品は手動で角度を調節することができません)。角度がついた状態で保存すると、ゴミなど異物が本製品の間に入りやすくなります。
- ・フレベリンLEDカートリッジは、使用期限が残っている場合でも、保存の際には使用中のカートリッジは廃棄し、再使用時は新しいカートリッジをご使用ください。

水タンクにカビや雑菌の繁殖が疑われる場合、下記方法にて清掃をお願いします

清掃方法

※流し台など水がこぼれても問題のないところで作業を行ってください。

- ① 水タンクへ水を300～500ml程度入れてください。
- ② 水タンクへ適量の台所用塩素系漂白剤を入れてください。
- ③ 水タンクキャップをしっかりと閉めてください。
- ④ 水と漂白剤を攪拌するため、水タンクを5～10回程度振ってください。
- ⑤ 水タンクのキャップ部分が下になるよう置き、30分～1時間程度放置してください。水タンクキャップが床面と接触しないよう気を付けてください。止水弁が押されると水漏れします。

 注意	製品本体には取り付けないでください。
---	---------------------------

- ⑥ 水タンク内部の水を捨て、新しい水で何度か水タンクをよくすすいでください。

※汚れのひどいときは2回ほど繰り返してください。

※台所用塩素系漂白剤に記載の取り扱い上の注意をご確認ください。

廃棄のしかた

本製品は、通常のごみとして廃棄することができません。お住まいの自治体の指示に従って正しく廃棄してください。

長期使用にご注意ください

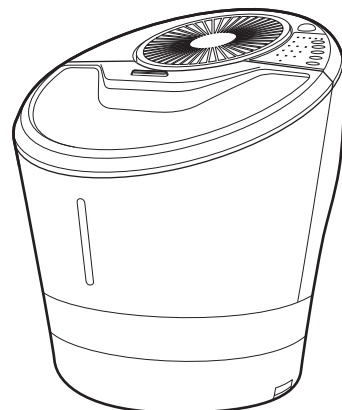
～ 電気製品には寿命があります ～

・定期的に点検してください

安心してお使いいただくため、定期的な点検をおすすめします。
10年以上使用されたハイブリッド式加湿器・サーキュレーターは買い替えを検討してください(ここでの「10年」とは保証期間ではありません)。経年劣化による発火、ケガなどの事故の発生が高まるおそれがあります

・故障したまま使用しないでください

本製品はヒーター内蔵の電気製品のため、火災や感電、水もれなどの原因になります。
異常がありましたら、すぐに電源プラグを取りはずし、販売店またはドウシシャお客様相談室(➡裏表紙)にご相談ください。



修理・サービスを依頼する前に

⚠ 警告 修理技術者以外の人は分解したり修理をしない。

「故障かな?」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
共通		
電源が入らない	・電源プラグがコンセントに差し込まれていない	電源プラグをしっかりと差し込む
リモコンで操作できない	・リモコンの電池が切れている	リモコンの電池を交換する
	・コイン形リチウム電池が逆に入っている	リモコンの電池を正しく入れる
	・使用可能範囲外から操作している	使用可能範囲内で操作する
表示ランプが暗くなる	・電源ランプ以外の表示ランプの明るさは、一定時間以上経過すると、暗く(50%)なるようになっている	問題ありません
加湿機能		
加湿が始まらない	・水温を60℃以上に加熱し、殺菌を行ってから加湿運転をするため、加湿開始まで約2分かかる	約2分間加湿が始まらないのは問題ありません
	・水がたくさん入りすぎてオーバーフローセンサーがはたらいている	水を捨てる
	・水が少ない／給水ランプが点灯している	水タンクに水を入れる
	・湿度が設定を超えている(うるおい約70%、快適・おやすみ約60%)と自動運転機能で運転を停止する	まわりの湿度が低くなると自動で運転を再開する(加湿ランプが点滅していると、自動運転で加湿を停止している状態)
加湿ボタン相応の加湿量にならない	・すでに周囲の湿度が高い状態になっている	問題ありません(周囲の湿度が下がると加湿量が増えます・サーキュレーターは回転しています)
加湿機能を使っているのに、サーキュレーターが回転する	・湿度を拡散させるための本製品の標準機能	問題ありません
水タンクに水が入っていても給水ランプが点灯する	・水タンクなどキッチンに取り付けられていない	水タンクなどをキッチンに取り付ける
	・抗菌カートリッジが取り付けられていないと給水されない	抗菌カートリッジを取り付ける
上ふたまわりから水滴が落ちる	・ミストノズルなどキッチンに取り付けられていない	ミストノズルなどをキッチンに取り付ける
加湿量(ミストの量)が少ない	・底部の加湿器吸気口が汚れている	加湿器吸気口をお手入れする
	・超音波振動板が汚れている	超音波振動板をお手入れする
	・超音波振動板が交換時期になっている(超音波振動板の耐久時間は約3000時間)	耐久時間を超えるとミストの発生量が少なくなったり、発生しなくなります。超音波振動板の交換が必要です。ドゥシヤお客様相談室(☛裏表紙)へご相談ください(交換は有償)
サーキュレーターの風量を変えられない	・加湿機能使用時の風量は設定することができません	問題ありません
切タイマー時間まで動いていない	・水タンクの水がなくなった	切タイマーを設定した時間を考えて水を入れておく
においがでる	・水道水以外を使用している	水道水以外は使用しない
	・本体内部・水タンクが汚れている	きれいに手入れをする

症状	主な原因	処置
においがでる	・長時間そのままだった水を使用している	本体内部・水タンクを十分お手入れして、きれいな水道水を使用する
	・抗菌カートリッジが交換時期	抗菌カートリッジを交換する 交換時期が過ぎたことでにおいが発生することは少ないですが、他の原因に対して効果があります
水の音 (ポチョポチョ音) がする	・加湿容量が多いと水が飛び跳ねて、水の音がすることがある	加湿ボタン(加湿) (加湿) でひとつ下のモードに切り替える
	・ミストノズルや上ふたがきちんと取り付けられていないと音がもれたり、水自体がもれることもある	ミストノズルや上ふたをきちんと取り付ける
電源を切ってもサーキュレーターの回転が止まらない	・加湿終了後、約30秒間回転を続けます	約1分間回転が止まらないのは問題ありません
サーキュレーター機能		
サーキュレーター機能が選択できない	・水が本体内部・水タンクに残っている	水を捨てる
湿度ランプが点灯しない	・加湿のときのみ点灯します	問題ありません
運転時に大きな音がする	・ガードが正しく取り付けられていない	ガードを正しく取り付け
	・羽根に異常がある(汚れが着いている)	お手入れをする
	・ガード・サーキュレーター吸気口に異物・汚れがある	ガード・サーキュレーター吸気口をお手入れする
本体に角度をつけたら給水ランプが消えてブザーが5回鳴って停止した	・水平なところで使用しないと加湿機能の水位センサーが水があると誤認することがある	水平なところで使用する
水の入った水タンクをセットしたらサーキュレーターが停止した	・本体内部に水が入ると、自動で加湿機能を使うモードに変更するため一旦すべて運転を停止状態にする	本製品の機能です ・水を入れた状態でサーキュレーターのみ使用はできません。水を捨ててください。(➡ 11ページ) ・加湿するための給水は必ず電源を切り、電源プラグを抜いてから行なってください(「加湿運転の準備」(➡ 7ページ))
風が弱い	・ガード・サーキュレーター吸気口が汚れている	ガード・サーキュレーター吸気口をお手入れする
クレベリンLED機能		
クレベリンボタン(クレベリン)を押しても動作しない	・カートリッジケースがはずれている、取り付けられていない	カートリッジケースを正しく装着してください
	・交換ランプが点灯している	クレベリンLEDカートリッジを交換してください。交換後、クレベリンボタンを5秒間以上長押しして交換ランプを消灯してください (➡ 14ページ)

長年ご使用の加湿器はよく点検を

このような症状はありませんか？

- ・電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- ・電源コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- ・こげ臭い匂いがする。
- ・その他の異常・故障がある。



このような症状の時は、事故防止のため、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店またはドウシヤお客様相談室に点検をご相談ください。

MEMO

MEMO